

令和 7 年度教育課程について

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

「子どもが、人やもの、こととの豊かなかかわりを通して、自律性と共存性を高め、相互啓発的な生き方を追求していけるようにする」

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

上記、教育目標を「思いゆたかに 考えふかく とともに生きる子」という表現で子どもたちと共有し、子どもたち自身が目標をもって学校生活を送ることができるようにする。

また具体的に以下のような育てたい児童像を教職員で共有し、常にそれと照らし合わせながら教育活動について計画し、更新しながら進めていく。

★育てたい児童像 (◎重点)

○充実した思考力…広い視野に立ち、合理的、創造的に考える子。

○練磨した感受性…人間や自然を親愛し、情操の豊かな子。

◎自覚的な社会連帯性…自他を尊重し、協力して社会を高めていく子。

- ・ 自分とは異質な他者であっても、排除することなく、温かいまなざしをもって受け入れることができる子。

- ・ 周りの人が嫌な思いをしないかと気にすることができ、嫌な思いをさせないような行動をし、もしさせてしまったら謝って直すことができる子。

○徹底した実践力…心身ともに健全で最後まで頑張りぬく子。

2 指導の重点

(1) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

本校では、これまで教科の本質とは何かということを考え、教科を学ぶ意味やその存在意義について幅広く検討してきた。また、教科での学びを生かし、個々の問いや疑問を出発点とした探究活動を行う「Laboratory」の時間を設けるため、教科学習の質を落とすことなく時数の制限までをも視野に入れたカリキュラムの編成を、各教科ごとに行ってきた。

一昨年度は「Laboratory」「Home」「Class」の3領域での教育課程について研究開発学校としての発表を行い、昨年度は教育課程特例校の指定を受け、3領域の互恵的な関係性について検証を進めてきた。本年度も継続して取り組み、実践を積み重ね、検証を進めていく。

イ 特別の教科 道徳

今までの学習に対する教師の価値観を見直し、子どもたち自身がさまざまな見方や考え方がある中から自分で取捨選択し、判断して、学びのデザインを考えていく。年間35時間の実施計画を詳細に詰めていくことより、6年間を見通したデザイン、

さらには卒業後の姿をも考えながら、授業を作っていく必要がある。そのためには、主に「Class」や「Home」の時間を通して、間接教材（読み物教材等）だけでなく、ときには直接教材（子どもの実生活の中にある教材）を扱いながら、「自己との向き合い方」を深め、醸成されていく価値観を大事に育む。

さらに「Home」という異学年で生活を共にし、活動することを通して、自分とは異質の他者を理解し、受け止め、共存するという気持ちを育む。具体的な子どもの姿として、「仲間の誰一人も置いていかない」「周りの人が嫌な思いをしないかと気にすることができ、嫌な思いをさせないような行動ができる」「もし、嫌な思いをさせてしまったら謝って直すことができる」ことを目指していく。「Home」の活動を充実させることで、いじめが発生しにくい土壌の集団を育成していくことを重点として取り組む。

ウ 外国語活動

英語科のカリキュラムを通して育てたい力は、英語運用能力と国際感覚である。

英語を“使えるもの”として学ぶためには、「目的・場面・状況」の明確な中で、実際に言語表現や語彙を使い合うことを通してコミュニケーションの方法について学び、その過程で発生する自然な気づきや意識的な確認を重ねることを通して言語の仕組みや表現を学んでいくことが大切であると考えている。

一方で、「英語を学ぶ」ということは、それ自体の意味を超えて他文化に気づき、知り、関心を持つということに始まり、そのことによってこれまで自明であったために対象化できなかった自文化の特色を見ることができるようになるという意味が見えてくる。さらに、他と自の双方を行き来しつつ三人称の視点で考えられるということが即ち「国際感覚」と言われるものにあたると考えられる。

この2つの学びを相互補完的に経験することで、共生社会の一員としての意識や能力を高めていく。

エ 総合的な学習の時間

「Laboratory」の時間に統合して行う。

オ 特別活動

主に、「Home」の時間に活動を行う。

「自分たちの願いや求めに応じた活動や体験を通して、共に生活する仲間と学校生活を創造する楽しさを共有しながら、自主的・自律的な意欲・態度・能力を育てる」ことを目標に活動を行う。

さらに、上記イにも記載したが、「Home」の活動を充実させることで、いじめが発生しにくい土壌の集団を育成していくことを重点として取り組む。

（２）特色ある教育活動

本校は令和元年度～令和5年度（令和2年度は名目指定とし、令和5年度まで延長）に文部科学省の研究開発学校の指定を受け、研究開発課題を「未来社会を創造的に生きる『学びを自分でデザインする子』を育成する、Laboratory・Home・Classの3領域で学ぶ教育課程及び学習環境デザインの研究開発」と設定してきた。

Laboratoryにおいては、学ぶ内容も方法も、成果物の表現手段も子ども自身で選ぶ。Homeでは、1年生から6年生からなる異年齢集団で誰にとってもよりよい生活づくりを目指す。Classの領域では、教科固有の見方・考え方、問題発見や問題解決に資する資質・能力の習得とその過程を通して汎

用的なスキルを習得することを目指す。なお,Class では,学ぶ内容,方法,表現についてカリキュラムとして学校が定めるので,子どもが学びをデザインする領域とはしないが,上記のデザインに資するものと考えている。

この3領域で学ぶことで,子どもは学びをデザインするための資質・能力を育みながら,それらを活かして探究的,創造的活動に繰り返し学びをデザインする。

昨年度から,教育課程特例校の指定を受け,これらの機能が効果的に働くための学習環境の整備を検討するとともに,研究開発学校の指定を受けていない学校でも実施可能な教育課程として一般化を目指し,広く発信していくことを目的に実践を進めてきた。本年度はさらに実践を重ね検証を進めていく。

(3) 生徒指導・進路指導

ア 生徒指導

子どもが安心して集える学校を目指して,組織的に活動する。特にいじめ防止へ日常的観察とその共有を重視する。いじめにつながる可能性があるトラブルが判明した場合には,管理職,教育相談部などとの共有を速やかに行う。いじめが疑われると判断されるときには,いじめ対策委員会を開催し,その対応にあたる。

さらに,「Laboratory」「Home」「Class」という3領域の教育課程を編成することにより,一人の子どもに対して,多くの教員が関わることで,これまで以上に多くの大人の目で一人の子どもを見ることができ,子どもにとっても相談できる大人の幅を広げることができる。この本校の教育課程の特徴を生かし,日々,組織的に子どもの対応にあたる。

イ 進路指導

児童の実態を客観的に把握し,児童及び保護者とも十分に情報交換を重ねながら,計画的に余裕を持って指導に当たり,児童にとって最適と思われる進路指導の方向を見い出せるように努める。

3 学年別授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

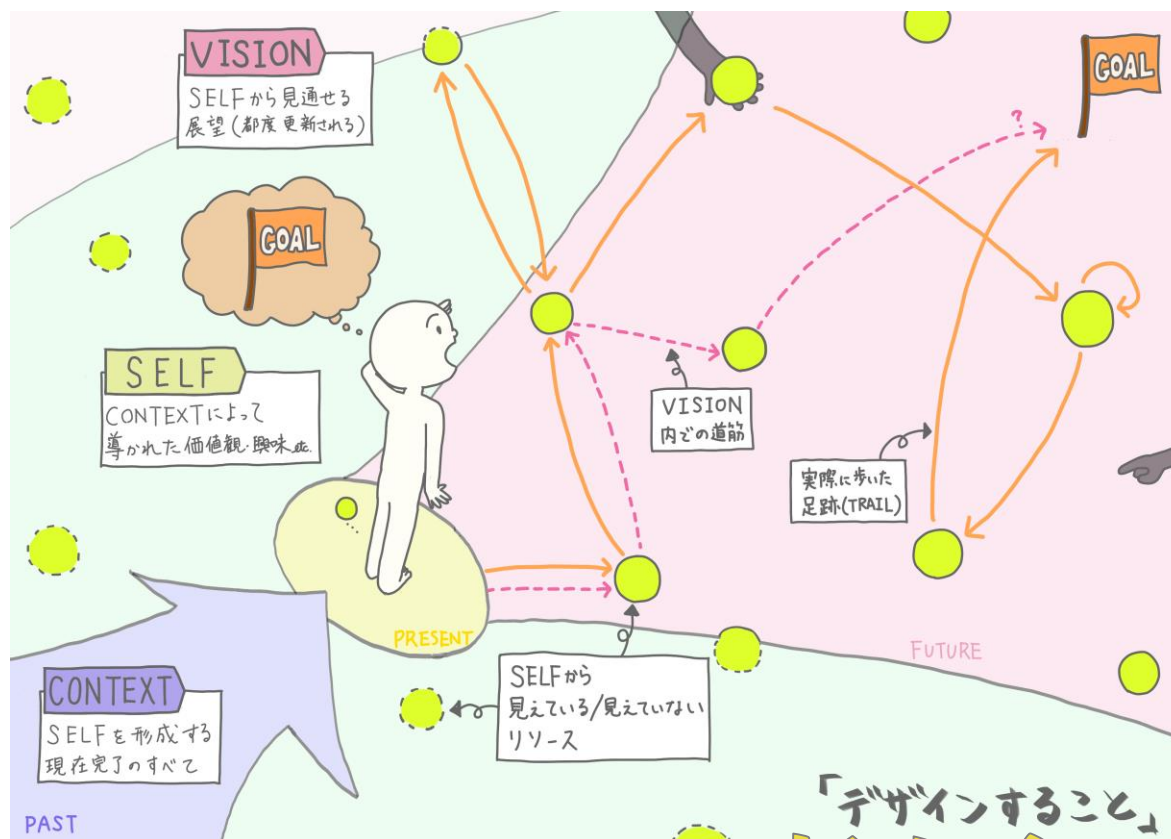
学年 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
1	14	19	19	11	0	19	20	15	18	15	18	14	182
2	17	20	20	11	0	20	21	15	18	16	18	14	190
3	17	20	20	11	0	20	21	15	18	16	18	14	190
4	17	20	20	11	0	20	21	15	18	16	18	14	190
5	17	20	20	11	0	20	21	15	18	16	18	14	190
6	17	20	20	11	0	20	21	14	18	16	18	14	189
備 考													

(2) 各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動の年間授業時数

区分 \ 学年		1	2	3	4	5	6
Class	国 語	306	315	210	210	140	140
	社 会			70	90	100	105
	算 数	136	175	175	175	175	175
	理 科			90	105	105	105
	生 活	102	105				
	音 楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家 庭					60	55
	体 育	102	105	105	105	90	90
	外国語					70	70
	小 計	782	840	770	805	840	840
特別の教科 道徳		34	35	35	35	35	35
外国語活動				35	35		
総 合 的 な 学 習 の 時 間			0	0	0	0	
特 別 活 動		0	0	0	0	0	0
Laboratory				105	105	105	105
Home		105	105	105	105	105	105
総 計		921	980	1050	1085	1085	1085
備考	※「特別活動」については、「Home」の活動の中で行う。「Home」の時間は、特別活動の35時間分を充当し、さらに世田谷小独自に週2時間分、年間70時間を追加する。 ※3年生以上の「Laboratory」の時間は、「総合的な学習の時間」の年間70時間分と、国語の「話す」「聞く」の内容の時間分年間35時間を充当する。 ※「特別な教科 道徳」については、「Class」の授業と同様に時間割に位置付けて指導を行う。 ※低学年のClassでは、合科的・関連的な指導を積極的に行い、児童の学びを総合的に展開できるようにしている。 ※授業は1単位時間45分で実施する。						

		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日		金曜日	
	8:20～9:05	Home	Home	Class	Home		Class（道徳）	
1 時間目	9:10～9:55	Class	Class	Class	Class		Class	
2 時間目	10:00～10:45	Class	Class	Class	Class		Class	
中休み	10:45～11:05							
3 時間目	11:05～11:50	Class	Class	Class	Class		Class	
4 時間目	11:55～12:40	Class	Class	Class	Class		Class	
給食・掃除・帰りの会	12:40～13:45	Home	Home	Home	Home		Home	
5 時間目	13:55～14:40	Class	Laboratory		Class	Lab.	Class	Lab.
6 時間目	14:45～15:30	子ども会議	Laboratory		Class	Lab.	Class	Lab.
最終下校		14:50	15:40	13:20	15:40		15:40	

本校の目指す子ども像



未来において
「～したい」

これまで、
自分は～してきた

「デザインすること」
だから、今は～する！

学びをデザインする子

「学びが自分（たち）のものであると自覚し、学びの目標、道筋、表現方法を思考し選択している**状態**」

デザイン実践の場

Laboratory

学びの「ビジョン」に迫る道筋を
「自分」でデザイン



Home

よりよく生きる

「よりよく生きる」ことを
「みんな」でデザイン

探究のサイクル



Class

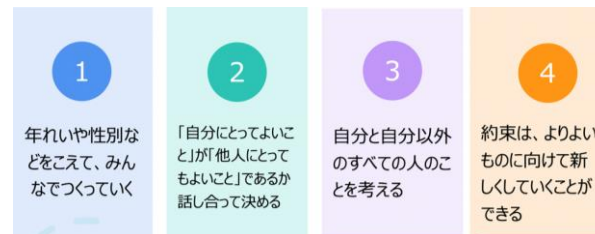


多様な在り方

デザインの実践に向けて、文化・科学の叡智から世界の見方・考え方を広げる
⇒子どもの経験世界を広げ、「デザイン」につなげる

Laboratory

- ・ 自分の興味・関心に基づいて、探究に没頭する
- ・ 目的意識をもつ
- ・ 試行錯誤する
- 友達といっしょがいい
楽したい



Home

- ・ いつでも、どこでも、だれとでも、通用することか
- ・ 心穏やかな居場所
- ・ お世話しなきゃ/他人任せ
- ・ 仲間内だけ

Class

- ・ 各教科の考え方、見方を楽しむ→ラボに生きる
- ・ 「知っている」だけでなく「わかっている」「できる」まで目指す
- ・ 自分が何を学んだか自覚する→面談で語る
- これまでの学習を積み上げを、自分だけのストーリーとして捉える
- ・ テストなどで、できなていないことがわかったら、成長のチャンスと捉える
- 他人より丸が多い、点が高いから大丈夫

Laboratory

- ・お子さんの意思を尊重する
- ・取り組んでいることについて会話する
認める、励ます
- ・わからないこと、できないことに
めげない力、身心の健康
- ・必要なものの準備
- ・~~パブラボで見られるから仕上げなきゃ~~

Home

- ・お子さんの意思を尊重しつつも、異なる
立場の人についても気を巡らせる習慣
- ・うまくいかないことにめげない力
身心の健康
- ・必要なものの準備
(各種連絡や提出物は基本的にHomeへ)

Class

- ・時間をまもって行動する（他の子の学ぶ機会も大切に）
- ・忘れ物をしない（常に全部持って移動）
準備や宿題の習慣をつける。整理・整頓（気持ちだけでは解決しない）
記名、筆記用具（不用物はもたない）、iPad充電
- ・さまざまは体験をすること
ゆとりのある時間、文化、自然、家事
→教科学習の元になります
- ・結果だけでなく、取り組みの姿勢を認め、励ます。